



12月号

「スピーチにうつります」
司会の声で、

みんな車座になり、

胸を高鳴らせた

学年代表六名が前に出る。

「次は、一年Nさんです。」
「はい。」

返事と同時に私への一べつ。

「がんばって。」

とうなずいてやる。

体育館に広がるNの声。

百二十二の瞳が吸い寄せられる。

話し終わつたすずしげな顔。

感想発表を求める手、手、手。

一人の体験発表に

みんなが心を通い合わせて

恵田つ子のスクランムが、

今日も、また、一段と固くなる。

（スピーチ集会）

昭和62年12月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会



(落ち葉スキー — 恵田小)

「鬼遊び」は子供の遊びの王様である。半澤敏郎著『童遊文化史』によれば、遊びの別称（いろいろな言い方）の多さでは、「鬼遊び」が二五五でトップ、次が「めんこ」と「おはじき」二五四である。

「めんこ」が男子、「おはじき」が女子、「鬼遊び」が男女共通の遊びであるところからみれば、やはり最も多くの子供達に遊ばれているのは「鬼遊び」ということになろう。



「鬼遊び」に思う

丸 地 八 潮

は、略奪結婚の反映とされている。

両者を比較してみると、遊び方のルールや歌を伴う点など共通性が多い。しか

し、外国の「鬼遊び」の呼び名は「tag,

chase, touchなど)が用いられ、追う、捕

えるといった動作に直接的である。一方、

日本では、「鬼」という仮想のものの名

辞がゆるがない核となつておらず、それが

ものもある。しかし、この遊びの根底は、世界に例をみない特徴となつていて。

（愛知教育大学附属岡崎小学校校長）

じやれ遊びの「追い—逃げ」の楽しきであろう。

会によって変容するということである。

現在の遊びやスポーツを考えると、

あまりにも結果としての勝利に短絡化す

ぎているよう思えてならない。そして、

イギリス、アメリカのそれの基本的形式

は、「タッチ・ティック・タッグ・彼」

といわれるもので、狩猟に由来するとい

われている。逃げる者が鉄や木に触れて

いれば安全というの、鉄が悪魔よけと

いう俗信、木はキリストの十字架の意味

といわれている。「ハンカチ落とし」など

多人数だと最初から「グーなしジャンケン」で「鬼」を決めてしまう。かつては、

ジャンケンの結着がなかなかつかないの

で、自然に、誰かが「グーなし！」と叫

んで、瞬時に皆が納得して「ジャンケン

ポン」となるくらいのゆとりがあった。

さらに言えば、「鬼遊び」の前に「鬼決

め遊び」があった。「かごめかごめ」、

「ずいすいすつころばし」や「坊さん坊

さん」などは、歌を伴った「鬼決め遊び」

である。「鬼」を決める遊びが先行し、

その次に本題の「鬼遊び」があつたので

ある。子供達は、「鬼決め遊び」を進め

るうちに心身の準備をし、次第に高めら

れた状態で、自分の全てを本題の「鬼遊

び」にぶつけるのである。序・破・急の

姿の遊びは純粹なその子が生きてくるよ

うに思えてならない。

現代社会が性急であるのを受けて、遊

びやスポーツも短絡的となつていている。せ

いわれている。また、「子取り鬼」のよ

うに、佛教思想普及のために考案された

苦勞してほれこむ

社会科指導員

梶尾 長夫

A先生は、田植えから収穫まで、子どもたちと一緒にになって稲の生長を追い続け、総合単元「育てよう」を構成した。背面掲示の追究の足跡が映えていた。

C先生は、四年「郷土を開いた人々」において、学区の「藤木用木」を見事に教材化した。子どもと家庭と学校が、学習を通して一つになっていた。

D先生は、中学校一年「四大河文明」の切りこみ口として「ピラミッド」を取り上げた。社会科部の先生方全員で巨石を作り、劇を演じて授業を盛り上げた。



ふるさとシリーズ —この人に聞く—



十七年、名古屋の藤井さんという方に教えを請い、栽培に着手された。

「松の林の中で何かできることはないかと考えて、初めは、反歩ほど開拓して植えたんですが、気温が低くて葉が落ちてしましました。だめかと思つてい

たら、その夏根元から葉が出てきたんです。その時はうれしかったですね。」

センリヨウは光に対し微妙に影響されるといわれる。

「日陰が七で日向が三の割合が最適ですね。その加減がちょうど松林の中の状態なんです。だから、松の枝ぶりにも気を配るんですよ。」

自然のあるがままを利用された着眼点の鋭さには感服せざるを得ない。

センリヨウ作りの魅力をお尋ねした。

「冬の花のない時期に長持ちして、お客様に喜んでもらえることですかね。」

三十有余年、丹精込めて栽培し続けた岡崎のセンリヨウは、実の色・数・葉の段数において優れた評価を得るに至った。

しかし今、中根さんにとって思わず苦難が待ち受けている。全国的に問題となつてきているマツクイムシの被害である。ゴルフ場脇の山斜面にあるセンリヨウ畑は、見るも無残に松の枯木が

三株ほど買つたんです。その時に植木屋が、センリヨウは名もいし美が葉の土について縁起がよく金がもうかるよと言つていたのを覚えてます。」

「昔、祖父が天神様でセンリヨウの株を中根さんとセンリヨウとの関りは遠く幼い頃にさかのぼる。」

「昔、祖父が天神様でセンリヨウの株を三株ほど買つたんです。その時に植木屋が、センリヨウは名もいし美が葉の土について縁起がよく金がもうかるよと言つていたのを覚えてます。」

「二年ほど前からマツク

ができなくなつてしまつたんです。おまけに気温が高く、七・八月に雨が少なかつたので実がつかなくて」と肩を落とされる。順調な軌道に乗つていただけに、その衝撃が大きかつたのだろ。

苦慮されながらも今後の対策について

「松に代わるスギを植林しています。この木が成長してくれれば、きっとセンリヨウもきれいな赤い実をつけてくれることでしよう。」

と、青々とした葉を枝に蓄えたスギの小木を指しながら語られた。

「駄駄のセンリヨウがなくなつてしまつるのは何とも寂しいものです。一年や二年犠牲にしてでも、必ずよみがえらせ

てみせますよ。」

再起にかける中根さんの不屈の情熱に心打たれる一日であった。

(住 所 岡崎市駄駄町字石神四十)

岡崎のセンリヨウは、実の色・数・葉の段数において優れた評価を得るに至つた。

しかし今、中根さんにとって思わず苦難が待ち受けている。全国的に問題となつてきているマツクイムシの被害である。ゴルフ場脇の山斜面にあるセンリヨウ畑は、見るも無残に松の枯木が

三株ほど買つたんです。その時に植木屋が、センリヨウは名もいし美が葉の土について縁起がよく金がもうかるよと言つていたのを覚えてます。」

「昔、祖父が天神様でセンリヨウの株を三株ほど買つたんです。その時に植木屋が、センリヨウは名もいし美が葉の土について縁起がよく金がもうかるよと言つていたのを覚えてます。」

「二年ほど前からマツク

ひき寄せる努力を重ねられている。頭だけではなく、心と体を働かせている。苦労してほれこんだ教材だからこそ子どもたちのものになっている。

自作絵カードの効果

英語科指導員

加藤 忠彦

最近、若い教師の授業を見て感心することは絵が上手なことである。線画だけではなく、原色の使い方にも驚かされる。

英語の授業には、場面に応じていろいろ言い換える文型練習がある。その時にこの用紙サイズの絵が登場するのである。次々に目の前に出てくる絵に生徒の目は輝く。期待感のようなものが感じ取れる。次に教師を観察する。絵を提示する時、決まってにこにこしている。絵でなくして、言葉でキュー（手がかり）を与えていた。全国的に問題となつてきているマツクイムシの被害である。ゴルフ場脇の山斜面にあるセンリヨウ畑は、見るも無残に松の枯木が

三株ほど買つたんです。その時に植木屋が、センリヨウは名もいし美が葉の土について縁起がよく金がもうかるよと言つていたのを覚えてます。」

個人指導の時間にそのことを尋ねてみた。すると、「絵を描く時間は楽しい。生徒が私の絵でうまく答えられるかどうか想像しながら描くのです」と答えた。

生徒の反応を考えながら取り組む姿勢にかけたことだろう。

「生徒の反応を考えながら取り組む姿勢にかけたことだろう。

（3）

日米教師交換研修

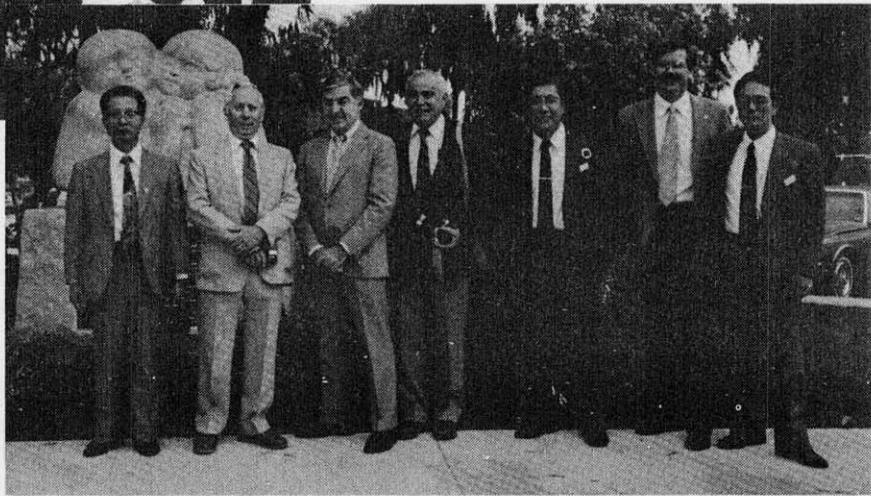
WELCOME TO KANSAI
FROM PORT BEACH



ニューポートビーチ — 岡崎

(10/4 ~ 10/17)

(10/18 ~ 11/1)



平岩浩文先生（城北中）
スコット・デューク先生
川瀬哲夫先生（美川中）
ロナルド・ノレン先生
ニューポートビーチ市長
T・スコット・スマス先生
近藤克実先生（連尺小）



▲少年自然の家での交歓

美川中の山の学習に参加し、すきやき風煮に舌づみ。「アメリカのスキヤキと味がちがう」とのこと。

- ニューポートビーチの先生の声から
- ・岡崎の学校は、設備が大変よく整つていて、しかも、きれいである。
- ・生徒たちの発言することばには自信があり、行儀もよい。一時間の集中度もすばらしい。

これまで、ニューポートビーチ市への中学生親善使節は六回行われているが、教師の交換研修は今回が初めてである。今回は、理科教師という立場から、理科の授業、科学施設や教育文化施設の実情視察などが主な研修内容であった。その一部を写真で紹介することにした。

岡崎市と姉妹都市ニューポートビーチ市との間で、理科教師三人ずつの交換研修が行われた。これは、日米姉妹都市間で、中小学校教師の教育交流と相互理解を願って企画されたもので、両市の教育委員会が主催した。（ソニー教育振興財団後援）



▶お茶に挑戦
の深津武司先生のお茶席で日本文化にふれる。

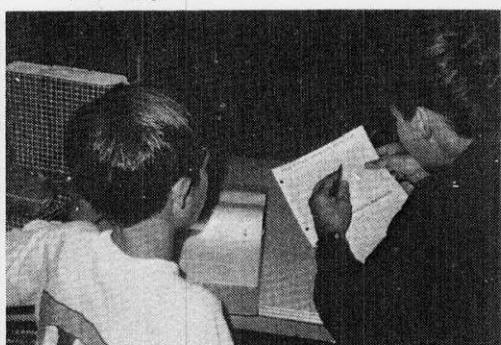


▲城北中学校にスマス先生、デューク先生をお迎えして生徒代表のあいさつも英語で立派に。

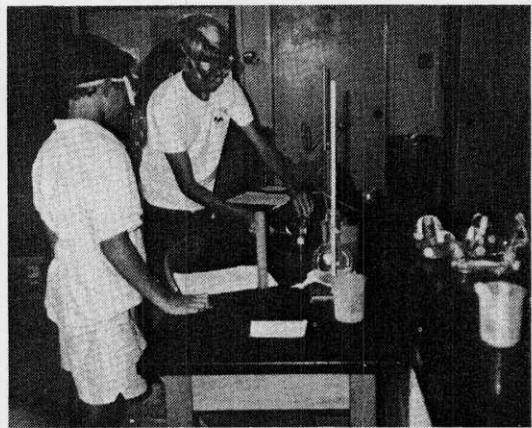
▼レイジーWキャンプ場での水生動物採集
子どもたちが採集した動物についての指導は、専門の指導員が行っている。



▼マリナー小学校での採点風景
採点は母親のボランティアによって行われている。



メディアセンター▶
先生の教材製作のためのセンターで、ライブラリー、教育図書、製作場などを完備している。



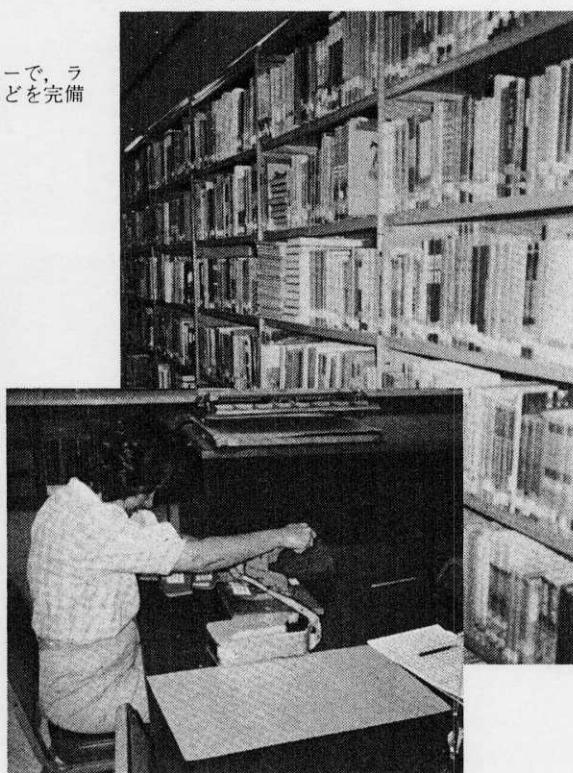
▲エンセン中学校での理科実験
水素発生実験など危険を伴う実験では安全のために眼鏡をかけている。



▲ダナポイント海洋研究所
小中学生が網を使って実際に魚をとり、実地の学習ができる。



▲マリナー小学校の教室
ソファーでの授業と並行し、手前のテーブルでは個別学習を行っている。



楽しい催し 全校会食

秦梨小 青山 永子

「ねえ、先生。もつと大きいのを作ろう。」

とうとう新聞紙を二十四枚もつなげて、人間がすっぽり入るほどの大きなかぶとを作るこことなった。今年、こいのぼり会食の出し物の準備をしていた時のことである。

全校児童八十四名の秦梨小学校では、毎年折々の暦に合わせて全校会食をしている。五月にこいのぼり会食、七月には七夕会食、九月は秋の七草会食、十二月にはクリスマス会食、そして、三月にはお別れ会食である。今年は新たにおひなさま会食も予定している。

今年は新たにおひなさま会食も予定している。

学年の枠を越えて、ゆつくりおしゃべりをし、ゲームを楽しむ、いろいろな先生と一緒に食べられる全校会食は、みんなの大好きな楽しみの一つである。簡単なゲームでも全校でやると楽しい。子どもたちは椅子の上に立つまで拳手したり、嬉々として大声を出したりする。静めくない。

小さな学校だからこそできる全校での会食。会場の準備は六年生全員と給食委員。食べた

ことである。

スチーナーに絵スチーナー……。鯉の絵をかいてもらって会場に飾り、賞を出したこともあった。

会食はまず歌から始まり、多くの子が食べ終わるところから、給食委員や各班による出し物を始める。班は全校児童の縦割りで、十班に分かれている。

一年生などは会食を指折り数えて楽しみにしている。当日になると朝から会食の話ばかりしてくる始末である。

学年の枠を越えて、ゆつくりおしゃべりをし、ゲームを楽しむ、いろいろな先生と一緒に食べられる全校会食は、みんなの大好きな楽しみの一つである。簡単なゲームでも全校でやると楽しい。子どもたちは椅子の上に立つまで拳手したり、嬉々として大声を出したりする。静めくない。

小さな学校だからこそできる全校での会食。会場の準備は六年生全員と給食委員。食べた

会食が近づくと、給食委員は知恵を出し合って出し物や飾り付けを考える。毎回同じ物にならぬよう工夫する。折り紙でのかぶと作り、B紙で作った紙芝居、クイズ、劇迷路、しりとりやキャンドルサービス、ジェ

スチーナーに絵スチーナー……。鯉の絵をかいてもらって会場に飾り、賞を出したこともあった。

会食はまず歌から始まり、多くの子が食べ終わるところから、給食委員や各班による出し物を始める。班は全校児童の縦割りで、十班に分かれている。

一年生などは会食を指折り数えて楽しみにしている。当日になると朝から会食の話ばかりしてくる始末である。

学年の枠を越えて、ゆつくりおしゃべりをし、ゲームを楽しむ、いろいろな先生と一緒に食べられる全校会食は、みんなの大好きな楽しみの一つである。簡単なゲームでも全校でやると楽しい。子どもたちは椅子の上に立つまで拳手したり、嬉々として大声を出したりする。静めくない。

小さな学校だからこそできる全校での会食。会場の準備は六年生全員と給食委員。食べた

後は食器を運んだりするのは班長、副班長。食べたり、ゲームなどをする時も大きい子が小さい子の世話をよくしてくれる。思いやりや、やさしさも自然に培われていく。

「今度の会食の出し物は何にしたらみんなが楽しめるかな」。何かと忙しい毎日であるが、係の私も、給食委員も頑張らずにはいられない。

会食はまず歌から始まり、多くの子が食べ終わるところから、給食委員や各班による出し物を始める。班は全校児童の縦割りで、十班に分かれている。

一年生などは会食を指折り数えて楽しみにしている。当日になると朝から会食の話ばかりしてくる始末である。

学年の枠を越えて、ゆつくりおしゃべりをし、ゲームを楽しむ、いろいろな先生と一緒に食べられる全校会食は、みんなの大好きな楽しみの一つである。簡単なゲームでも全校でやると楽しい。子どもたちは椅子の上に立つまで拳手したり、嬉々として大声を出したりする。静めくない。

小さな学校だからこそできる全校での会食。会場の準備は六年生全員と給食委員。食べた

ことである。

铭打つて、定められた八つの目的地のうち、最低三ヶ所以上は回ることを条件に、徒歩やバスを利用して市内探訪をしようとするものである。

我々教師は、目的地に先回りして、やつてくるグループをチエックするだけ。

教育日々



新しい遠足

福岡中 高村 廣

わが福岡中三年生は、市内再発見の遠足を計画している。市内のバスを利用して、四、五人

回は、目的地が①岡崎公園及び家康館、②子ども美術館及び岡崎つ子展、③六所神社、④真福寺及び岩津天満宮、⑤大樹寺

⑥郷土館、⑦滝山寺、⑧伊賀八幡宮である。市内の文化的及び歴史的な場所を見学させ、郷土のグルーピング、生徒自らの計画

で見学をするユニークな遠足で

「同じようなやり方をする学校があるんだね」

となりた。本校が本年度の遠足について事前指導をした日である。生徒にそのことを話すと

「声。遠足も時代とともに変わつた。」ある。我々教師が古い殻から脱皮する必要があるのでは



おしらせ



第十五回教育文化賞

岡崎の教育文化振興に貢献した個人や団体のすぐれた業績をたたえる岡崎教育文化賞授賞式が、去る十一月十四日、県岡崎勤労福祉会館において行われた。本年度は、個人十五人、団体十件の推薦があつた。選考の結果、次の個人三人と二団体が選ばれ表彰された。

個人

▽永田精一氏
岡崎市元能見町二〇二

茶道具の指物師として、日本文化の継承

▽松井幸彦氏
岡崎市立小豆坂小学校教諭

ビルマの日本人墓地の調査・研究とビルマとの親善活動

手づくり単元の展開」と題し

■ソニー理科教育優秀賞に恵田 小学校

昭和六十二年度ソニー理科教諭

育振興資金において「人間の持つ可能性の開発をめざす教育」

達教諭が青年教師賞に入賞した。

昭和六十二年度日本標準教育 賞論文において、連尺小学校加藤由美子教諭が優秀一位、松下工藤彩友美(附属小)二位

寺田裕一(竜海中)

「語り聞く」
「シユタインナ教育の体験を語る」

早稲田大学教授

子安美知子氏

外山滋比古氏

◆板倉勝重公傳 川路和夫
(上) 二九一ページ
(下) 七四一ページ
◆空間表現と描画の発達 幼児
画の発達とことばの記録

た恵田小学校の論文が優秀賞に輝いた。
なお、優良賞に井田小学校、努力校に美川中が選ばれた。

西三河長距離競走大会 岡崎勢大躍進 (男子)
期日 昭和62年11月21日 場所 県岡崎総合運動場

◆第14回冬季研修会 ◇期日 昭和62年12月25・26日
◇場所 岡崎市少年自然の家
◇講師と演題

◆日本視聴覚教育賞論文、奨励
賞に藤川小学校 中山吉朗

昭和六十二年度、日本視聴覚教育賞に、藤川小学校が応募した論文「やる気と充実感で自らを開拓する授業の研究」が、見事視聴覚教育奨励賞を受賞した。

男子優勝 東海中Aチーム 三位 福岡中Aチーム
四位 竜海中Aチーム 二位 山岸俊一氏
五位 常磐中Aチーム 九位 美川中Aチーム
六位 福岡中Aチーム 四位 竜南中Aチーム
七位 竜海中Aチーム 三位 近藤貞雄氏
八位 常磐中Aチーム 四位 前原学館大学教授
九位 美川中Aチーム 五位 C.B.C野球解説者
十位 福岡中Aチーム 六位 元中日ドラゴンズ監督
十一位 竜海中Aチーム 七位 「現代社会とプロ野球」
十二位 福岡中Aチーム 八位 「わたしの土佐日記」
十三位 竜海中Aチーム 九位 前岡崎市教育長
十四位 福岡中Aチーム 十位 鈴村正弘氏
十五位 竜海中Aチーム 三位 江見芳和(大門小)
十六位 福岡中Aチーム 四位 村松真人(大門小)
十七位 竜海中Aチーム 五位 前愛知県小中学校長会長
十八位 福岡中Aチーム 六位 前竜美丘小学校校長
十九位 竜海中Aチーム 七位 鈴木依治氏
二十位 福岡中Aチーム 八位 「余生、一日」
二十一位 竜海中Aチーム 九位 「このごろ思うこと」
二十二位 福岡中Aチーム 十位 岩田恵子(矢北中)

以上が十二月二十五日長久手青少年公園で行われる県大会へ出場する。

■学研教育賞に連尺小学校

「活力にみちた道徳教育の実践活動」に取り組んできた連尺小学校の業績が認められ、第32回学研教育賞が授与された。

■第19回岡崎市民マラソン大会の結果(小中学校関係分)
期日 昭和62年11月22日 場所 県岡崎総合運動場

前原学館大学教授 清水孝之氏
前岡崎市教育長 鈴村正弘氏
前竜美丘小学校校長 岩田恵子(矢北中)

男子一位 西畠匡(緑丘小)
二位 江見芳和(大門小)
三位 村松真人(大門小)

前愛知県小中学校長会長 岩田恵子(矢北中)
前竜美丘小学校校長 岩田恵子(矢北中)

女子一位 小屋悦子(広幡小)
二位 清谷美樹(大門小)
三位 工藤彩友美(附属小)

前竜美丘小学校校長 岩田恵子(矢北中)
前愛知県小中学校長会長 岩田恵子(矢北中)

▽岡崎レクリエーション・リー

ダーピークラブ 代表 杉浦裕己会長

レクリエーションの指導者養成と、キャンプ指導を通して地域社会に貢献

△「岡崎文化」編集局
代表 広瀬紀章編集局長

「岡崎文化」の発刊を通して、地域文化の向上、文化活動の振興に寄与

△「岡崎文化」編集局
代表 杉浦裕己会長

「岡崎文化」の発刊を通して、地域文化の向上、文化活動の振興に寄与

△ソニー理科教育優秀賞に恵田 小学校

昭和六十二年度日本標準教育

賞論文において、連尺小学校加藤由美子教諭が優秀一位、松下工藤彩友美(附属小)二位

寺田裕一(竜海中)

「語り聞く」
「シユタインナ教育の体験を語る」

早稲田大学教授

子安美知子氏

昭和六十二年度日本標準教育 賞論文において、連尺小学校加藤由美子教諭が優秀一位、松下工藤彩友美(附属小)二位

寺田裕一(竜海中)

「語り聞く」
「シユタインナ教育の体験を語る」

お茶の水女子大学教授

・表紙写真
・カット

惠田小
井田小

倉橋幸代
水嶋直子
松井きよ子

現在の「子とともに」と「教育月報おかげ」を併せたようなもので、続いた使命を終わり、発行中止となつた。

昭和三十一年に常任が岸田達夫先生、澤田昇先生、山本美一

昭和四十八年にスタートした現在の「岡崎の教育」よりも、二十年近く前に「教育月報」があつた。昭和二十九年創刊の、「教育月報おかげ」である。

糟谷正孝先生、小笠原健治先生、岩名栄二先生を常任としてほかに各校一名ずつの編集委員から三名ずつが輪番で参加し編集にあつた。

その後、県の「子とともに」が発刊されるに伴い、「教育月報おかげ」は、およそ三年間全十二ページの内容であつた。

昭和三十一年に常任が岸田達夫先生、澤田昇先生、山本美一

先生、中根清巳先生にかわつた頃（十九号）から内容が子どもと父兄向きに傾斜してきた。

月ごとにテーマを決めて編集したが、父兄へ購読させていたため（一部十円）、作品の募集やクイズ、時には問題集を折り込み、部数を伸ばす努力がされている。

おかざき



滝町 中根清巳氏蔵

この本を

*闇を裂く道 上・下	吉村 昭
文芸春秋	各￥ 950
*郡上艶に生きる	宗廣力三
講談社	￥1500
*江戸文化詞	西山松之助
岩波書店	￥1500
*花衣ぬぐやまつわる	田辺聖子
—我が愛の杉田久女—	￥1600
集英社	

※しごとが面白くなる	青木雨彦
平家物語	ダイヤモンド社 ￥1300

「平家物語」は、盲目の琵琶法師たちによって語り伝えられた平家一族盛衰の軍記物語である。本書は、現在コラムニストとして活躍中の著者が、この「平家物語」を現代サラリーマンの話に置きかえ、自らのサラリーマン生活ぶりを振り返りながらユニークな解釈をこころみたものである。

サラリーマンの生き抜く知恵を探った一冊。

自然の力の前に、人間がいかに無力であるかを感じる取材であつた。過日、セントリヨウ畑を訪れる。つい二年前まで松が生い繁り、その木もれ日で立派な赤い実をつけた畑が、今、みる影もない枯れ松林と化していた。はだかの松の下に、赤い実をほとんどつけないセンリヨウがあった。

炭焼きに初挑戦。村の古老人の手ほどきによつて、校舎の裏山に窯をひらいた。子どもたちの手で一本一本丁寧に積み重ねられた炭材が、一昼夜焼かれた後に立派な炭として生まれ変わつた。郷土に息づく貴重な知恵をこそ、子どもたちに伝えたいものである。

シ 才

ス ア

汗をかくことを「汗する」。「タバコする」、「お茶しませんか」、「元気してますか」、「フォーカスされた」など耳なれないことばが巷に流れる。

若者は、むしろ新鮮な響きを感じるという。言語感覚は、よい言語環境でとぎすまされる。騒音の歳末がしのび寄るが、さて、子供の耳は。

ほどきによつて、校舎の裏山に窯をひらいた。子どもたちの手で

本一本丁寧に積み重ねられた炭材が、一昼夜焼かれた後に立派な炭として生まれ変わつた。郷土に息づく貴重な知恵をこそ、子どもたちに伝えたいものである。

草田男